

第42回大会 若手交流委員会企画「若手交流会」報告

若手交流委員会(渋谷・新見・金南・青木)

1. 開催概要

「異文化間教育学会×国際理解教育学学会 合同若手交流会——学会を越えてつながろう」

<企画主旨>

合同開催の良さを生かし、異文化間教育学会、国際理解教育学学会それぞれの若手研究者の相互交流の場とする。限られた時間ではあるが、研究や実践上等のネットワークづくりとともに、新しい視点の獲得、共通関心の発見や共同研究の糸口などが得られることを目的とする。

(1) 学会相互紹介

異文化間教育学会から2名、国際理解教育学学会から2名、それぞれの学会の研究の傾向や学会の雰囲気などを簡潔に伝える

異文化間教育学会:新見、金南

国際理解教育学学会:青木、由井(敬称略)

(2) ブレイクアウトセッションにて交流

各グループ約5名とし、9グループに分かれてブレイクアウトセッション。

Google Jamboard を使用しながらディスカッションを行った。

実施にあたっては、若手交流委員に加えて、これまでの企画参加者を中心にファシリテーター役を依頼し、各グループでのディスカッションを進めていただいた。

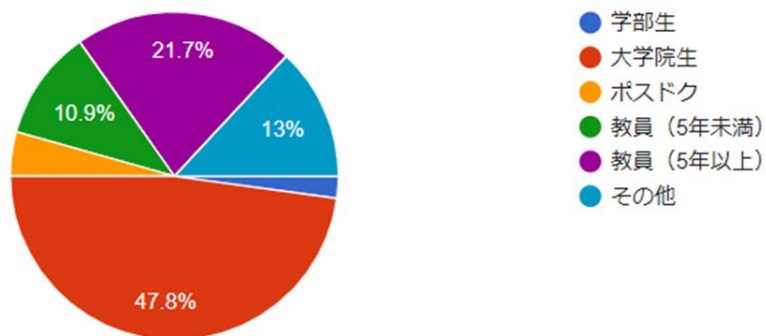
<ブレイクアウトセッションにおける情報共有イメージ>



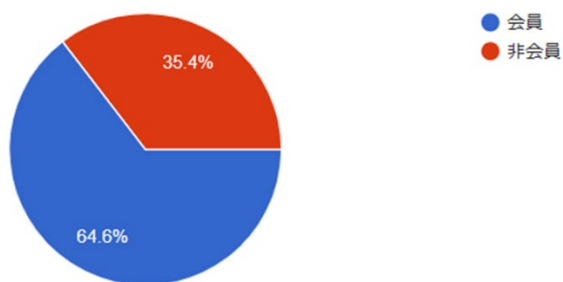
2. 参加状況

参加者 46 名、若手交流委員4名 計 50 名

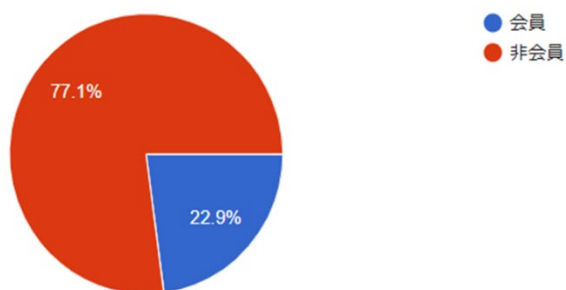
<参加者プロフィール>



<異文化間教育学会への入会状況>



<日本国際理解教育学会への入会状況>



3. アンケート結果報告

<p>それぞれの悩みについて語る事ができてよかった。特によく出てくる悩み(子育てと研究との両立、仲間づくり等)について一つのトピックとして企画にさせていただけるとおもしろいと思いました。</p>
<p>初めて交流会に参加したが、雰囲気とてもいいと思う。<u>先輩や先生たちの色々な意見を聞いて嬉しい。勉強になった。</u></p>
<p>短い時間ですが、有意義な交流ができ、貴重な機会になりました。ブレイクアウトの人数もちょうどよく、院生と先生方も両方おり、いろいろな意見交換ができました。</p>
<p>とても楽しく交流することができました。<u>この機に異文化間教育学会へ入会したいと考えています。</u></p>
<p>悩みや課題を共有できるだけでも意味があった。</p>
<p>異文化間教育学会の学会員のみならずとも交流でき有意義な時間を過ごすことが出来ました。ありがとうございました。</p>
<p>ご準備お疲れ様でした。コロナ禍でつながりが生まれづらい中、開催していただいたことは大変意義深かったと思います。<u>ぜひ対面で活動ができるようになったら、半日や1日かけて交流を深めるイベントも再開できると、さらに研究の輪を広げられるかな、と考えています。今後ともよろしく願いいたします。</u></p>
<p>大変話しやすい雰囲気で他の方と交流することができ、よかったです。特にこの状況下で他の方のお仕事の話を知れたのは有益でした。</p>
<p>とても良い機会をありがとうございました。交流会では、研究方法について、とても勉強になりました。今回は非会員の立場として参加させていただいたのですが、<u>今後は会員として参加させていただきたい</u>と思います。</p>
<p>初めての参加でしたが、ブレイクアウト・ルームで異文化関連の研究をされている方のお話を伺うことができて、大変刺激的でした。<u>普段、大学院に似たテーマで研究している人が全くいないため、とてもワクワクした1時間でした。ありがとうございました！</u>同じブレイクアウト・ルームに入った方と<u>コンタクトしたい場合の連絡先</u>が分かると嬉しかったです。(ダイレクトメッセージ機能がオフになっていたので)改めて企画、運営ありがとうございました！</p>
<p>非常に有意義な時間をありがとうございました。委員の方々の入念な事前準備のおかげで、セッションが円滑に進みました。ファシリテーションの方法なども勉強になりました。若手交流会が今年度最後と伺い、非常に寂しいです。今後も、類似の企画などがありましたら、ぜひとも参加させていただきたいと思っております。</p>
<p>短い時間でしたが、関心の近い方々と繋がれたことがよかったです。</p>
<p>共通する調査方法である<u>インタビュー調査</u>について色々なご意見を聞いてよかったです。また、研究の見通しが立たず、気持ちが焦って精神的に追い詰められていたけれども、同じような道を</p>

<p>歩んでこられた方々、歩んでいる最中の方々とお話してきたことで、気持ちが楽になりました。ありがとうございました。</p>
<p>院生の方々とお話ができてよかったです。具体的に困っていることが何か、確かに自分も思っていたな、ということなどを振り返る機会にもなりました。他の分野ではそんな繋がり方があるのか、という発見もありためになりました。青木さんの温かなファシリテーションもありがたかったです。どうもありがとうございました。</p>
<p>とても楽しかったです。同じような境遇の方と会え励みになりました。ありがとうございました。</p>
<p>オンライン開催の学会では、小グループで自分のことについて話す機会がなかったので、大変いい機会になりました。<u>とくに互いの悩みや、こうしているよ、というヒントを学べて研究に対しても視野が広がり、選択肢が増えたように感じます。</u></p> <p>またフォーマルな部会とは違い、ささいな悩みを吐露できる場合は、自分を励ましてくれるので大変気に入りました。</p> <p>若手交流委員会の先生方に感謝申し上げます。</p>
<p>とても楽しかったです。</p>
<p>ご企画ありがとうございました。対面での学会開催が困難な中、短い時間でも交流があつてとてもありがたいです。<u>グループ分けについて、様々なキャリアや研究関心がある程度近い方とお話できる仕組みがあると、オンラインでの交流もより深まるのかなと感じました。</u></p>
<p>お世話になっております。今回、予めグループ分けをしてくださり、参加者の研究テーマや問題意識を共有させて頂きましたので、数十分の交流時間のなかで、一番聞きたいことを整理することができて、大変助かりました。交流会の内容も勉強になり、貴重な機会となりました。本当にどうもありがとうございます。</p>
<p>久しぶりに学会に参加できて楽しく、また参加者の皆さんと<u>困り事</u>などお話しできて嬉しかったです。</p>
<p>藪田先生のスムーズな facilitation のおかげで、<u>インタビューを使ったり</u>サーチをするときの悩みやわからないことを話し合うことができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。ありがとうございました。</p>
<p>ブレイクアウトセッションで、<u>研究方法</u>などについて互いに情報交換できたのが有益だった。</p>
<p>研究分野の異なる会員同士の<u>意見交換</u>は貴重なものでした。</p> <p>コロナ禍で若手同士の関わりが希薄で、悩みを打ち明ける同年代の存在との共感できる機会が少なくなりました。</p> <p>今日の交流会では、研究につきやす時間確保や将来キャリアへの不安など、自分だけが抱えている悩みではないことがわかり、励みになりました。</p>
<p><u>キャリア</u>について、<u>コロナ禍における研究生活</u>について、などいろいろなお話が伺えておもしろかったです。</p>

自分の研究分野以外の方と交流することができてよかったですと思います。もう少し時間にゆとりがあればよかったですと思いました。

4. 振り返り

日本国際理解教育学会との合同開催の機会を活かし、両学会の会員が交流できる場として企画立案を行った。準備にあたっては、これまでの企画の参加者から得た意見を活かし、小グループでの交流方法を検討した。また実施にあたっては、これまで若手交流委員会の企画に参加した学会員及び委員とつながりのある学会員に事前の打ち合わせや当日の実施における協力を依頼した。

当日は大学院生、ポスドクを中心としながらも、非学会も含め幅広い層の参加があり、結果的に様々な観点からのディスカッションができたとの声があった。誰もが話しやすい場を作るなど一定の配慮が必要であるが、若手会員に限らず、キャリアが長い会員の参加により相互に学ぶ点があったと考える。

参加者のフィードバックからは、研究方法に関する問題関心の高さをみることもできた。また同じ立場にある会員間の交流とともに、研究分野が異なる会員間の意見交換のニーズもあることも伺える。これまでの企画を通じて、所属機関に異文化間教育に関わる研究関心を共有する教員や院生がいない立場にある会員から、学会における交流会や共同研究への期待が寄せられており、若手会員に関わる課題の一つと考えられる。

企画・運営等、準備にあたっては、若手交流委員相互で事前検討を重ね、協力して活動を行うことができた。若手交流委員、また協力してくださった会員に感謝したい。(渋谷)